

1 題材名 つないでモフモフ あっ、みえた！（造形遊び）

2 題材について

（1）1年生のアートメタ認知は、浸る、没頭の中にある

本題材は、図1の梱包材を使った造形遊びである。“モフモフ”は授業者が命名した呼称である。1年生の子ども達に育みたいアートメタ認知は、材料との対話をきっかけとして活動に浸る、没頭するという姿の中にあると考えている。そこで“モフモフ”の軽くてふかふかした材質の手触り、肌ざわりは、1年生が対話する材料として可愛らしく、清潔感もあり相応しいと考えて、呼称を創作した。



図1 モフモフ（梱包材）

（2）1年生の造形遊び

1年生の造形遊びは、まず、材料を並べたり、つないだり、積んだりするなどしながら、何かのイメージをもち活動することもあれば、活動するうちに具体的なものをつくり始めることもある。本題材では、材料の形状から、接着剤を使用せずに積むには限界があるため、題材名は、「並べる」と「つなぐ」を集約して「つないでモフモフ」とした。しかし、経験則から、一度具体的なものをつくり始めると、身近な主題で操作が容易な活動に着想を求め、発想が委縮する懸念がある。そこで、手元のモフモフを全て使うという条件設定を加えることにした。

（3）図画工作の学びの探究は物語を抱き、広げること

材料をつなぐ活動で、まず想定されることは、身近な具体物を再現することである。例えば、モフモフを10個程度つなぐことで“へび”は再現できる。しかし、そのへびは、いつ、どこで、何をしている姿か、あるいは、さらに発想を広げ、イメージを掴んで表現しようとしているかは、図画工作の学びを深め、探究する上でおさえないことである。造形遊びは、材料との対話の過程で思いついたことを基に活動することが基本である。具体的なものを再現して活動が閉じるのではなく、新たな意味や価値を創造することを目指したい。「あっ、みえた！」という題材名は、その願いを託している。

3 学習指導計画（1時間目／全3時間）

- 第1次 モフモフの材質を楽しみながら、表現活動始めるきっかけをつかむ。…本時1時間／3
- 第2次 つなぎ方を工夫したり、発想を広げたりしながら表現活動を継続する。…1.5時間
- 第3次 名札に題名と名前を書き、相互鑑賞をする。…0.5時間

4 本時の学習について

（1）本時のねらい

- ・モフモフの材質を楽しむことに浸り、表現活動に没頭するきっかけをつかむ。

（2）予想される本時の展開

| 主な学習活動と子どもの姿                                 | 留意点   |
|--|---|
| 1. モフモフをファミリー内で均等に分ける際に、材料の感触を楽しむ。           | ・ 大量のモフモフを設置し、子どもの期待感を促す。                     |
| 2. モフモフでどんなことができるか、個人でできること、共同で活動したいこと等を考える。 | ・ <b>発問</b> 「モフモフでどんなことができそうですか？」             |
| 3. 手持ちのモフモフを全て使うための発想や構想を練る。                 | ・ 手持ちのモフモフをすべて使うことを伝える。                       |
| 4. 着彩する場合は、個人持ちのカラーペンを使用する。                  | ・ 活動の様子を見ながら、接続するための工作用接着剤、つまようじ、アルミ線などを紹介する。 |
|  | ・ アルミ線の使用は、危険防止のために、輪に巻いて使うように全体に伝える。         |